



平成 25 年 12 月 5 日

各 位

会社名 株式会社テグ・ウエスタン・セラビ[®] テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4 5 7 6)
問合せ先 取締役総務管理部長 上窪 彩子
TEL 0 5 2 - 2 1 8 - 8 7 8 5

新規緑内障治療剤「H-1129」の国内非臨床試験開始のお知らせ

当社が創製した開発品である新規緑内障治療剤「H-1129」につき、ライセンスアウト先のおかもと製薬株式会社より、平成 25 年 12 月 5 日より国内非臨床試験(以下「本試験」)を開始する旨の連絡を受けましたのでお知らせいたします。

本試験は、H-1129 の薬理作用、薬物動態及び安全性を確認するための試験であり、細胞を用いた *in vitro* 試験や動物を用いた *in vivo* 試験が行われます。本試験の進捗状況については、判明次第お知らせいたします。

なお、本件によるマイルストーン受領の予定はなく、平成 25 年度 12 月期の業績予想への変更はありません。

H-1129 について

プロテインキナーゼ^(注1)阻害剤^(注2)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注3)のリード化合物を基にして最適化された、緑内障を適応用途とする開発品です。当社独自技術であるドラッグ・ウエスタン法^(注4)により、標的タンパク質^(注5)は熱ショックタンパク質^(注6)Hsp90 であることが特定されております。また、細胞内での化合物と標的タンパク質の結合様式等の分子薬理学的研究が完了しており、緑内障治療薬としての新規作用メカニズムによる、強い眼圧下降作用と神経保護作用を有することが確認されております。

以 上

用語解説

(注1) プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー物質)等の生体のエネルギーの元となる低分子物質等のタンパク質分子にリン酸基を付加する(リン酸化)酵素です。タンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと呼び、タンパク質以外のものをリン酸化するものをキナーゼと言います。

(注2) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。医薬品としては、この酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用しております。

(注3) 化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネの基となる化合物群です。これらの化合物の一つ一つは特徴的な性質を有しており、これらを基として、基礎研究や新薬候補化合物発見に役立っています。

(注4) ドラッグ・ウエスタン法

薬物の標的タンパク質の同定に使うバイオテクノロジーを応用した手法で、当社が発明し特許を保有しております。複雑なタンパク質精製プロセスを介せず、薬物が結合する少量のタンパク質を検出し、その遺伝子を同定することにより標的タンパク質を見出すことができる方法です。

(注5) 標的タンパク質

薬物が作用する相手のタンパク質を標的タンパク質と呼びます。生体はタンパク質が生体内で相互に作用することによって機能しておりますが、多くの病気はタンパク質の異常な働きによって引き起こされております。これらの病気には標的となるタンパク質が必ずあると考えられております。

(注6) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇して細胞を保護するタンパク質の一群であり、Hsp90などと、その分子量によりそれぞれの分子の名前がつけられています。